

	<h2>練馬区が 第1回日本サウンドスケープ協会賞を受賞 ～「しずけさの風景」を集めた業績が評価～</h2>
授賞式	令和3年9月4日（土）
<p>4日（土）、区が平成2年度に行った環境教育・啓発事業「ねりまを聴く、し・ず・け・さ10選」が、第1回日本サウンドスケープ協会賞（一般社団法人日本サウンドスケープ協会主催）を受賞しました。</p> <p>当時、環境行政は環境基準を超える騒音の規制や防止が中心でしたが、区民参加で「しずけさ」を感じる風景を選定した本事業は、環境の作り手としての市民とその環境認識に光を当てたことから関係学会の注目を受けました。その後、環境庁（当時）による「残したい日本の音風景事業（平成8年度）」をはじめ全国の自治体の「音風景」事業の端緒となっています。</p> <p>このたび、社会への波及効果の大きな実績が顕彰されたものです。</p> <p>授賞式に出席し、当時職員として関わった、現練馬区環境部長の市村 保^{いちむらたもつ}は「区民の皆様と協働することの大切さを再認識しています。練馬区に住んで良かったと思っていただけるよう、これからもまちづくりに取り組んでいきます。」と感想を述べました。</p>	



【日本サウンドスケープ協会】

日本サウンドスケープ協会は、サウンドスケープ（音の風景）という考え方を通して、現代およびこれからの社会における「音の文化」を振興することを目的とした団体。1993年に任意団体として設立され、2019年に一般社団法人になった。代表理事 鳥越けい子（青山学院大学総合文化政策学部教授）

※サウンドスケープとは、1970年代のカナダで提唱された考え方で「音の風景」を意味する。

【参考】

- ・ねりまを聴く、し・ず・け・さ10選について

本事業は、平成元年度から3か年にわたる「美しい星の、美しい暮らし」をキャッチフレーズとした環境教育・啓発事業の一環として行われたものである。

平成2年9月～11月に、区民にとって「しずけさ」が聴こえてくる場所を募集し、平成3年2月に10か所を選定した。募集対象は区内の公共的な場所とし、「石神井城址空堀」「長命寺の境内」「石神井公園三宝寺池」「どんぐり山憩いの森（現どんぐり山憩いの森公園）」「武蔵大学構内すすぎ川」「武蔵関公園上流側」「光が丘公園芝生広場」「清水山憩いの森（現清水山の森公園）」「武蔵関公園ボート池」「中大グラウンドの銀杏並木（現練馬総合運動場公園）」「豊中公園」「たがら公園」が選ばれた。

【問い合わせ】練馬区 環境課 庶務係 電話：03-5984-1047